

作成年月日	平成27年11月9日
作成部局課室名	企画県民部広報課広聴室

## 県民モニター「第3回アンケート調査」結果概要

### 1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「認知症対策について」
- (2) 調査対象者：県民モニター2,236人
- (3) 調査期間：平成27年9月9日(水)  
～9月23日(水)[15日間]
- (4) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数：1,575人(回答率70.4%)

<参考－対象者及び回答者属性>

	対象者	回答者	回答率
総数	2,236	1,575	70.4%
性別	男性	866	76.0%
	女性	709	64.7%
年代別	10～20代	73	51.4%
	30代	165	51.6%
	40代	295	63.3%
	50代	298	73.0%
	60代	390	80.7%
	70代以上	417	84.9%

### 2 調査結果の概観

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																				
身近に認知症の方はいるか	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いる</td> <td>35.5%</td> </tr> <tr> <td>いない</td> <td>64.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	いる	35.5%	いない	64.5%	<p>身近に認知症の方がいるかどうかについて、「いる」が35.5%、「いない」が64.5%となっていることから、約3人に1人の割合で認知症の方が身近にいることになっており、認知症は身近な病気になっていることがうかがえる。</p>														
区分	割合																					
いる	35.5%																					
いない	64.5%																					
認知症について知っていること	<p>【認知症という言葉やその症状を知っているか】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言葉も症状も知っている</td> <td>89.8%</td> </tr> <tr> <td>言葉は知っているが、症状は知らない</td> <td>10.0%</td> </tr> <tr> <td>言葉も症状も知らない</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【認知症について具体的に知っていること】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>誰でもなる可能性がある身近な病気である</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>40代、50代などの若年者でも発症することがある</td> <td>81.9%</td> </tr> <tr> <td>加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違う</td> <td>79.6%</td> </tr> <tr> <td>早期受診・治療等により症状を改善することや進行を遅らせることが可能な場合がある</td> <td>77.8%</td> </tr> <tr> <td>患者が増加する傾向にある</td> <td>72.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	言葉も症状も知っている	89.8%	言葉は知っているが、症状は知らない	10.0%	言葉も症状も知らない	0.3%	区分	割合	誰でもなる可能性がある身近な病気である	89.6%	40代、50代などの若年者でも発症することがある	81.9%	加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違う	79.6%	早期受診・治療等により症状を改善することや進行を遅らせることが可能な場合がある	77.8%	患者が増加する傾向にある	72.4%	<p>回答者1,575人のうち1,571人が認知症について、「言葉と症状」あるいは「言葉」を知っていると回答しており、「認知症」という言葉は定着し、症状についても一般的に認識される状況になっていることがうかがえる。</p> <p>また、「知っている」と答えた人のうち、89.6%の人が「誰でもなる可能性がある身近な病気である」と回答しており、珍しい病気ではないことが理解されていると考えられる。</p> <p>次に「40代、50代などの若年者でも発症することがある」も81.9%と高い割合になっており、若年性認知症についても認識が進んでいることがうかがえる。</p>
区分	割合																					
言葉も症状も知っている	89.8%																					
言葉は知っているが、症状は知らない	10.0%																					
言葉も症状も知らない	0.3%																					
区分	割合																					
誰でもなる可能性がある身近な病気である	89.6%																					
40代、50代などの若年者でも発症することがある	81.9%																					
加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違う	79.6%																					
早期受診・治療等により症状を改善することや進行を遅らせることが可能な場合がある	77.8%																					
患者が増加する傾向にある	72.4%																					

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																																														
認知症について不安に感じること	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全体</th> <th>～64歳</th> <th>65歳～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>家族に介護等で精神的・肉体的負担をかける</td> <td>94.2%</td> <td>93.1%</td> <td>96.2%</td> </tr> <tr> <td>身のまわりのことができなくなる</td> <td>78.9%</td> <td>77.6%</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>治療や介護等で金銭的負担がかかる</td> <td>74.8%</td> <td>75.9%</td> <td>73.0%</td> </tr> <tr> <td>人付き合いができなくなる</td> <td>50.0%</td> <td>44.5%</td> <td>59.4%</td> </tr> <tr> <td>仕事が続けられなくなる</td> <td>49.5%</td> <td>61.7%</td> <td>28.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	全体	～64歳	65歳～	家族に介護等で精神的・肉体的負担をかける	94.2%	93.1%	96.2%	身のまわりのことができなくなる	78.9%	77.6%	81.3%	治療や介護等で金銭的負担がかかる	74.8%	75.9%	73.0%	人付き合いができなくなる	50.0%	44.5%	59.4%	仕事が続けられなくなる	49.5%	61.7%	28.4%	<p>全体で見ると、「家族に介護等で精神的・肉体的負担をかける(94.2%)」ことや、「治療や介護等で金銭的負担がかかる(74.8%)」ことなど、様々な負担について不安を感じると回答した人の割合が高く、支援体制の充実や相談窓口のさらなる周知が求められる。</p> <p>また、「身のまわりのことができなくなる(78.9%)」も高い割合となっていることから、生活支援サービスの充実と利用の周知を進める必要があると考えられる。</p> <p>年代別で見ると、現役世代を含む65歳未満で「仕事が続けられなくなる(61.7%)」と答えた割合が高くなっており、若年性認知症の就労支援も重要であることがうかがえる。</p>																						
区分	全体	～64歳	65歳～																																													
家族に介護等で精神的・肉体的負担をかける	94.2%	93.1%	96.2%																																													
身のまわりのことができなくなる	78.9%	77.6%	81.3%																																													
治療や介護等で金銭的負担がかかる	74.8%	75.9%	73.0%																																													
人付き合いができなくなる	50.0%	44.5%	59.4%																																													
仕事が続けられなくなる	49.5%	61.7%	28.4%																																													
認知症に対する備え	<p>○「65歳未満と65歳以上」で集計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全体</th> <th>～64歳</th> <th>65歳～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>している</td> <td>28.9%</td> <td>20.0%</td> <td>44.2%</td> </tr> <tr> <td>しようと思っている</td> <td>24.4%</td> <td>24.4%</td> <td>24.4%</td> </tr> <tr> <td>していない</td> <td>46.7%</td> <td>55.5%</td> <td>31.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○「身近に認知症の方がいる/いない」で集計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全体</th> <th>いる</th> <th>いない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>している</td> <td>28.9%</td> <td>40.3%</td> <td>22.6%</td> </tr> <tr> <td>しようと思っている</td> <td>24.4%</td> <td>28.3%</td> <td>22.3%</td> </tr> <tr> <td>していない</td> <td>46.7%</td> <td>31.5%</td> <td>55.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【認知症に備えてしていること】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活習慣(食事・運動など)の改善に努めている</td> <td>84.2%</td> </tr> <tr> <td>脳のトレーニング(計算・パズルなど)を実行している</td> <td>67.0%</td> </tr> <tr> <td>認知症関連の記事やテレビ番組などをよく見て情報を入手している</td> <td>64.6%</td> </tr> <tr> <td>生活や介助の在り方について、事前に家族と話をしている</td> <td>22.9%</td> </tr> <tr> <td>かかりつけ医などに日頃から相談し助言を受けている</td> <td>10.8%</td> </tr> <tr> <td>成年後見制度の利用について、事前に相談している</td> <td>4.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	全体	～64歳	65歳～	している	28.9%	20.0%	44.2%	しようと思っている	24.4%	24.4%	24.4%	していない	46.7%	55.5%	31.4%	区分	全体	いる	いない	している	28.9%	40.3%	22.6%	しようと思っている	24.4%	28.3%	22.3%	していない	46.7%	31.5%	55.0%	区分	割合	生活習慣(食事・運動など)の改善に努めている	84.2%	脳のトレーニング(計算・パズルなど)を実行している	67.0%	認知症関連の記事やテレビ番組などをよく見て情報を入手している	64.6%	生活や介助の在り方について、事前に家族と話をしている	22.9%	かかりつけ医などに日頃から相談し助言を受けている	10.8%	成年後見制度の利用について、事前に相談している	4.4%	<p>2番目の設問では、認知症は「誰でもなる可能性がある身近な病気である」と認識した人が9割近くいたが、「認知症に対して備えをしている」と回答した人は全体の3割に満たず、65歳以上でも「認知症に対して備えをしている」と回答した人は44.2%、身近に認知症の方がいる人でも40.3%と半数以下にとどまっていることから、認識を備えにつなげるよう、さらに啓発することが必要であると考えられる。</p> <p>認知症に対する備えをしていると回答した人のうち、「生活習慣(食事・運動など)の改善に努めている(84.2%)」と回答した割合が最も高く、次いで、「脳のトレーニング(計算・パズルなど)を実行している(67.0%)」「認知症関連の記事やテレビ番組などをよく見て情報を入手している(64.6%)」となっている。</p> <p>これらの認知症予防への関心に応えるため、科学的な根拠に基づき効果のある予防方法の普及を図る必要があると考えられる。</p> <p>なお、成年後見制度の利用について相談している人は全体で4.4%と低い割合で、制度のさらなる周知が必要である。</p>
区分	全体	～64歳	65歳～																																													
している	28.9%	20.0%	44.2%																																													
しようと思っている	24.4%	24.4%	24.4%																																													
していない	46.7%	55.5%	31.4%																																													
区分	全体	いる	いない																																													
している	28.9%	40.3%	22.6%																																													
しようと思っている	24.4%	28.3%	22.3%																																													
していない	46.7%	31.5%	55.0%																																													
区分	割合																																															
生活習慣(食事・運動など)の改善に努めている	84.2%																																															
脳のトレーニング(計算・パズルなど)を実行している	67.0%																																															
認知症関連の記事やテレビ番組などをよく見て情報を入手している	64.6%																																															
生活や介助の在り方について、事前に家族と話をしている	22.9%																																															
かかりつけ医などに日頃から相談し助言を受けている	10.8%																																															
成年後見制度の利用について、事前に相談している	4.4%																																															

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																								
自分や家族が認知症ではないかと思ったことがあるか	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 250 625 304">区分</th> <th data-bbox="632 250 708 304">割合</th> <th data-bbox="715 250 804 304">～64歳</th> <th data-bbox="810 250 957 304">65歳～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 304 625 349">ある</td> <td data-bbox="632 304 708 349">26.0%</td> <td data-bbox="715 304 804 349">28.3%</td> <td data-bbox="810 304 957 349">22.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 349 625 394">ない</td> <td data-bbox="632 349 708 394">74.0%</td> <td data-bbox="715 349 804 394">71.7%</td> <td data-bbox="810 349 957 394">77.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="408 394 957 439">【認知症ではないかと思ったときの対応】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 439 855 483">区分</th> <th data-bbox="861 439 957 483">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 483 855 528">医療機関を受診した</td> <td data-bbox="861 483 957 528">42.7%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 528 855 573">何もしていない</td> <td data-bbox="861 528 957 573">31.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 573 855 663">認知症のチェックシートなどを試してみた</td> <td data-bbox="861 573 957 663">24.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 663 855 707">地域包括支援センターに相談した</td> <td data-bbox="861 663 957 707">12.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 707 855 752">県や市町の行政窓口相談した</td> <td data-bbox="861 707 957 752">8.3%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	～64歳	65歳～	ある	26.0%	28.3%	22.2%	ない	74.0%	71.7%	77.8%	区分	割合	医療機関を受診した	42.7%	何もしていない	31.0%	認知症のチェックシートなどを試してみた	24.9%	地域包括支援センターに相談した	12.2%	県や市町の行政窓口相談した	8.3%	<p data-bbox="976 215 1497 349">自分や家族が認知症ではないかと思ったことがある人は、全体で見ると26.0%で、年代別で見ても大きな開きはみられなかった。</p> <p data-bbox="976 416 1497 730">認知症ではないかと思ったことがあると回答した人のうち、その後の対応で、「医療機関を受診した(42.7%)」と回答した人の割合が最も高く、適切な対応をとっている人が半数近くいる反面、「何もしていない(31.0%)」と回答した人も3割以上いることから、早期発見・早期治療の重要性をより一層周知することが必要であると考えられる。</p>
区分	割合	～64歳	65歳～																							
ある	26.0%	28.3%	22.2%																							
ない	74.0%	71.7%	77.8%																							
区分	割合																									
医療機関を受診した	42.7%																									
何もしていない	31.0%																									
認知症のチェックシートなどを試してみた	24.9%																									
地域包括支援センターに相談した	12.2%																									
県や市町の行政窓口相談した	8.3%																									
認知症について知りたいこと	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 815 855 860">区分</th> <th data-bbox="861 815 957 860">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 860 855 904">予防方法</td> <td data-bbox="861 860 957 904">76.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 904 855 949">受けられる支援・サービス</td> <td data-bbox="861 904 957 949">70.5%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 949 855 994">認知症の人への接し方、介助の方法</td> <td data-bbox="861 949 957 994">55.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 994 855 1039">受診する医療機関</td> <td data-bbox="861 994 957 1039">53.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1039 855 1084">相談する行政窓口</td> <td data-bbox="861 1039 957 1084">47.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1084 855 1128">原因</td> <td data-bbox="861 1084 957 1128">41.5%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1128 855 1218">家族の会、本人や家族が参加できる認知症カフェなどの取組</td> <td data-bbox="861 1128 957 1218">23.1%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	予防方法	76.2%	受けられる支援・サービス	70.5%	認知症の人への接し方、介助の方法	55.9%	受診する医療機関	53.3%	相談する行政窓口	47.0%	原因	41.5%	家族の会、本人や家族が参加できる認知症カフェなどの取組	23.1%	<p data-bbox="976 779 1497 1084">「予防方法(76.2%)」と回答した人の割合が最も高く、予防に対する情報ニーズの高さがうかがえる。次いで、「受けられる支援・サービス(70.5%)」となっており、本人・家族の負担軽減を図るための具体的な支援に対する関心が高いことがうかがえる。これらのことから、県民への情報提供を充実していく必要があると考えられる。</p> <p data-bbox="976 1084 1497 1326">また、「受診する医療機関(53.3%)」、「相談する行政窓口(47.0%)」に関する情報にも一定の需要があることから、かかりつけ医を通じた認知症対応医療機関の利用や、市町の認知症相談センター等に関する情報提供も引き続き実施していくことが必要と考えられる。</p>								
区分	割合																									
予防方法	76.2%																									
受けられる支援・サービス	70.5%																									
認知症の人への接し方、介助の方法	55.9%																									
受診する医療機関	53.3%																									
相談する行政窓口	47.0%																									
原因	41.5%																									
家族の会、本人や家族が参加できる認知症カフェなどの取組	23.1%																									
認知症になっても暮らしやすい社会になるために必要なこと	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 1370 855 1415">区分</th> <th data-bbox="861 1370 957 1415">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 1415 855 1505">介護している家族への支援を強化すること</td> <td data-bbox="861 1415 957 1505">75.2%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1505 855 1594">早く発見できるように健診などを充実すること</td> <td data-bbox="861 1505 957 1594">65.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1594 855 1684">認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービスを増やすこと</td> <td data-bbox="861 1594 957 1684">63.6%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1684 855 1729">相談できる窓口を増やすこと</td> <td data-bbox="861 1684 957 1729">55.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1729 855 1774">専門医・専門医療機関を増やすこと</td> <td data-bbox="861 1729 957 1774">51.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1774 855 1863">認知症の人が暮らせる施設やグループホームを増やすこと</td> <td data-bbox="861 1774 957 1863">47.9%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1863 855 1953">認知症の人が行方不明にならないように見守りや早期発見の取組を強化すること</td> <td data-bbox="861 1863 957 1953">46.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1953 855 2074">県民の認知症に関する知識や理解を広げること</td> <td data-bbox="861 1953 957 2074">39.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	介護している家族への支援を強化すること	75.2%	早く発見できるように健診などを充実すること	65.3%	認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービスを増やすこと	63.6%	相談できる窓口を増やすこと	55.0%	専門医・専門医療機関を増やすこと	51.3%	認知症の人が暮らせる施設やグループホームを増やすこと	47.9%	認知症の人が行方不明にならないように見守りや早期発見の取組を強化すること	46.4%	県民の認知症に関する知識や理解を広げること	39.5%	<p data-bbox="976 1335 1497 1603">「介護している家族への支援を強化すること(75.2%)」と回答した人の割合が最も高く、「認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービスを増やすこと(63.6%)」の割合も高いことから、地域の介護・生活支援サービスの充実を支援して、家族の負担を軽くする必要があると考えられる。</p> <p data-bbox="976 1603 1497 1818">また、「早く発見できるように健診などを充実すること(65.3%)」と回答した人の割合も高いことから、もの忘れ健診(認知症を早期に発見するための健診)等の実施を市町に働きかけていく必要があると考えられる。</p>						
区分	割合																									
介護している家族への支援を強化すること	75.2%																									
早く発見できるように健診などを充実すること	65.3%																									
認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービスを増やすこと	63.6%																									
相談できる窓口を増やすこと	55.0%																									
専門医・専門医療機関を増やすこと	51.3%																									
認知症の人が暮らせる施設やグループホームを増やすこと	47.9%																									
認知症の人が行方不明にならないように見守りや早期発見の取組を強化すること	46.4%																									
県民の認知症に関する知識や理解を広げること	39.5%																									

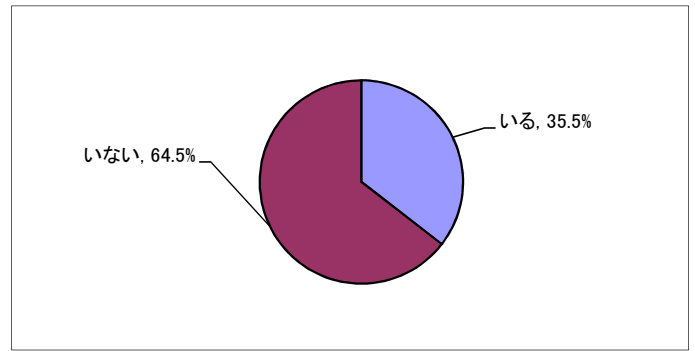
項目	アンケート結果(主な意見)				結果の考察
認知症施策について知っていること	区分	全体	～64歳	65歳～	<p>県や市町の実施している施策で知っているという回答した人の割合は、「認知症チェックリスト(25.1%)」、「地域で認知症の人を支える認知症サポーター(13.8%)」、「市町が設置している認知症相談センター(13.3%)」の順となっている。</p> <p>年代別で見ると、65歳以上では「認知症チェックリスト(32.8%)」、「市町が設置している認知症相談センター(19.1%)」、「兵庫県民総合相談センターで実施している「認知症・高齢者相談」(14.0%)」となっており、65歳未満に比べ、チェックリストや相談窓口の認知度が高くなっている。</p> <p>しかし、兵庫県の独自の取組である「認知症対応医療機関登録制度(4.8%)」と「各圏域に1か所指定されている認知症疾患医療センター(3.6%)」を知っている方の割合は低く、さらには、県や市町の実施している施策について、「知らない(56.7%)」と回答した人が半数を超えており、早期発見・早期治療を目指していくためには、制度や施策の更なる普及啓発に取り組む必要がある。</p>
	「認知症チェックリスト」	25.1%	20.7%	32.8%	
	地域で認知症の人を支える「認知症サポーター」の養成	13.8%	13.8%	13.9%	
	市町が設置している「認知症相談センター」	13.3%	9.9%	19.1%	
	兵庫県民総合相談センターで実施している「認知症・高齢者相談」	10.7%	8.8%	14.0%	
	県が設置している電話相談「ひょうごもの忘れコールセンター」	9.7%	9.7%	9.7%	
	「世界アルツハイマーデー」(毎年9月21日)	6.6%	7.4%	5.2%	
	「認知症対応医療機関登録制度」	4.8%	3.8%	6.4%	
	若年性認知症の相談窓口「ひょうご若年性認知症生活支援相談センター」	4.3%	4.7%	3.6%	
	認知症カフェ等への補助制度	3.9%	3.8%	4.2%	
	各圏域に1か所指定されている「認知症疾患医療センター」	3.6%	3.6%	3.6%	
	知らない	56.7%	60.3%	50.4%	

※アンケート結果は、兵庫県の認知症施策の総合的な推進のための基礎資料として活用する。

### 3 調査結果

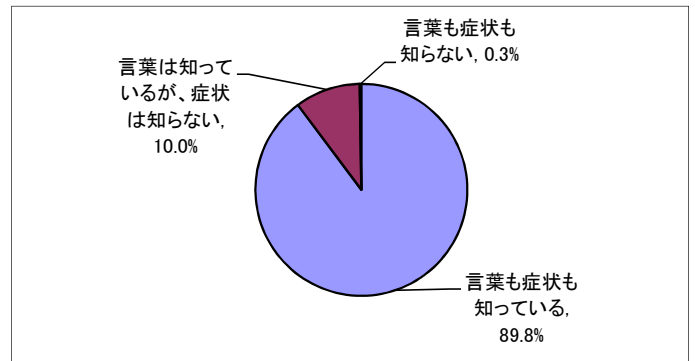
Q1 あなたの身近に認知症の方はいるか。  
(1つ選択)

- |         |       |
|---------|-------|
| (1) いる  | 35.5% |
| (5) いない | 64.5% |



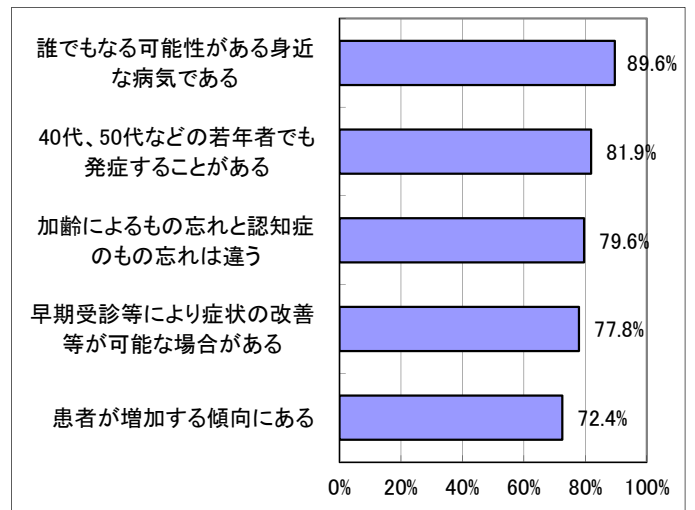
Q2 認知症という言葉やその症状を知っているか。(1つ選択)

- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| (1) 言葉も症状も知っている       | 89.8% |
| (2) 言葉は知っているが、症状は知らない | 10.0% |
| (3) 言葉も症状も知らない        | 0.3%  |



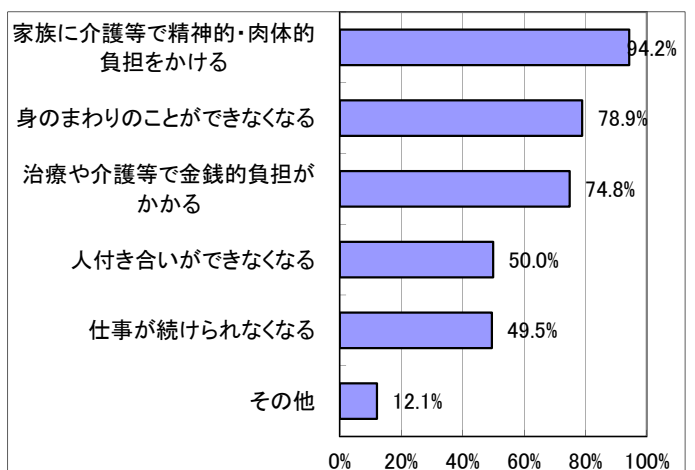
Q3 (Q2で「知っている」と回答した1,571人に) 認知症について知っていることは何か。(複数選択可)

- |   |       |
|---|-------|
| (1) 誰でもなる可能性がある身近な病気である                     | 89.6% |
| (2) 患者が増加する傾向にある                            | 72.4% |
| (3) 加齢によるもの忘れと認知症のもの忘れは違う                   | 79.6% |
| (4) 早期受診・治療等により症状を改善することや進行を遅らせることが可能な場合がある | 77.8% |
| (5) 40代、50代などの若年者でも発症することがある                | 81.9% |



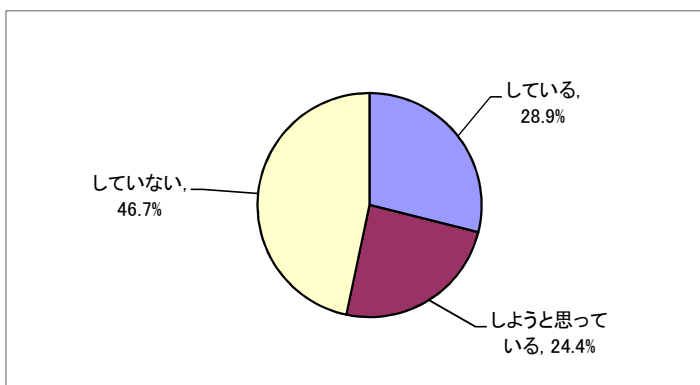
Q4 認知症について不安を感じることは何か。(複数選択可)

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| (1) 家族に介護等で精神的・肉体的負担をかける | 94.2%       |
| (2) 治療や介護等で金銭的負担がかかる     | 74.8%       |
| (3) 仕事が続けられなくなる          | 49.5%       |
| (4) 身のまわりのことができなくなる      | 78.9%       |
| (5) 人付き合いができなくなる         | 50.0%       |
| (6) その他                  | 12.1%       |
| ・事故や失火等、他人へ迷惑をかけること      | 23件         |
| ・人間らしく生きられなくなるのではないかなど   | 21件<br>191件 |



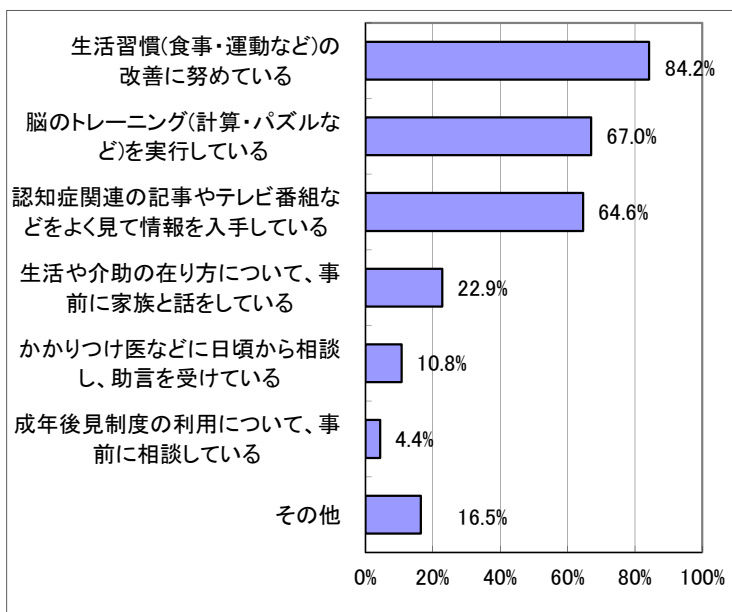
Q5 あなたは自分や家族のために、認知症に対して何か備えをしているか。(1つ選択)

- (1) している 28.9%
- (2) しようと思っている 24.4%
- (3) していない 46.7%



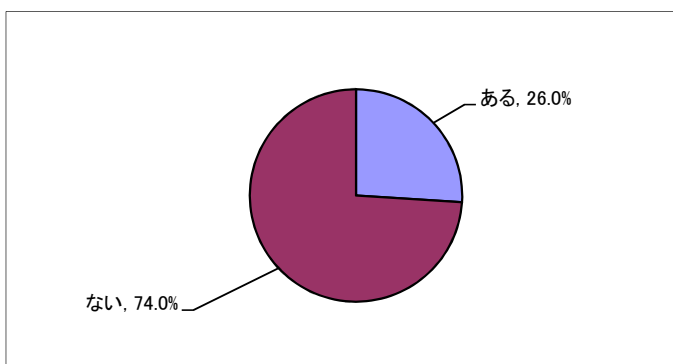
Q6 (Q5で「している」と回答した455人に)認知症に備えてどんなことをしているか。(複数選択可)

- (1) 生活習慣(食事・運動など)の改善に努めている 84.2%
- (2) 脳のトレーニング(計算・パズルなど)を実行している 67.0%
- (3) 認知症関連の記事やテレビ番組などをよく見て情報を入手している 64.6%
- (4) かかりつけ医などに日頃から相談し、助言を受けている 10.8%
- (5) 生活や介助の在り方について、事前に家族と話をしている 22.9%
- (6) 成年後見制度の利用について、事前に相談している 4.4%
- (7) その他 16.5%
  - ・人と会って話すようにしている 8件
  - ・老人大学等で興味のあることを学ぶなど 75件



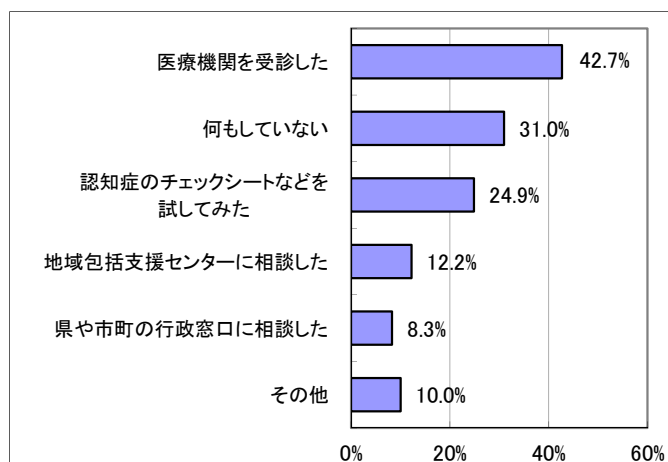
Q7 自分や家族が認知症ではないかと思ったことがあるか。(1つ選択)

- (1) ある 26.0%
- (2) ない 74.0%



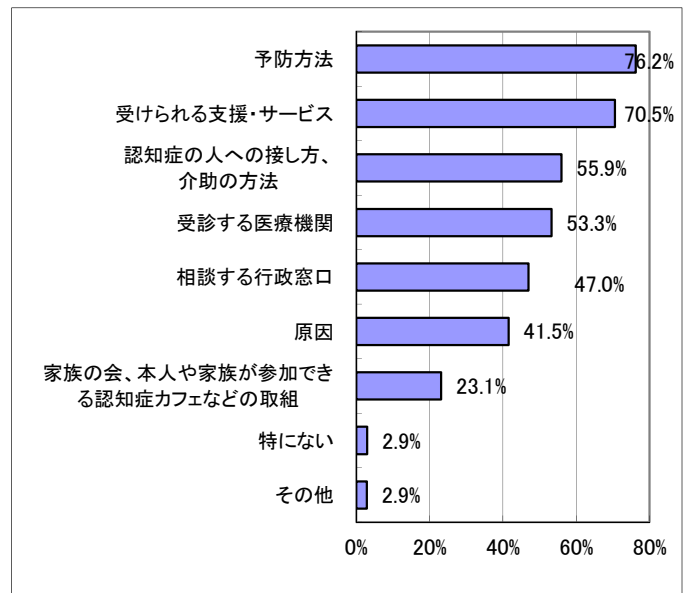
Q8 (Q7で「ある」と回答した410人に)そのとき、どのように対応したか。(複数選択可)

- (1) 医療機関を受診した 42.7%
- (2) 県や市町の行政窓口相談した 8.3%
- (3) 地域包括支援センターに相談した 12.2%
- (4) 認知症のチェックシートなどを試してみた 24.9%
- (5) 何もしていない 31.0%
- (6) その他 10.0%
  - ・家族・親戚に相談した 5件
  - ・気をつけて様子を見るようにしたなど 41件



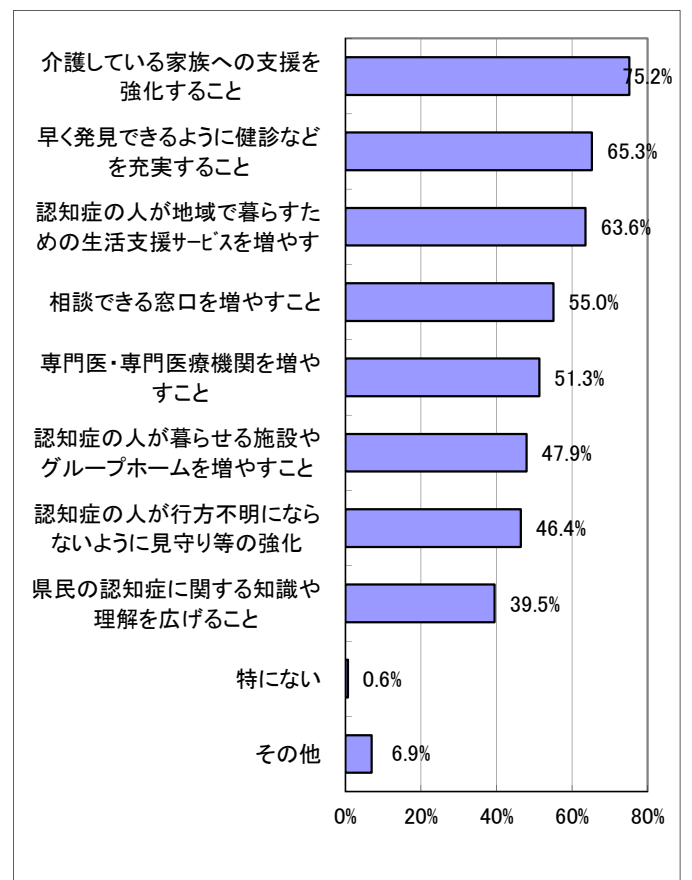
Q9 認知症について知りたいことは何か。  
(複数選択可)

(1) 原因	41.5%
(2) 予防方法	76.2%
(3) 受診する医療機関	53.3%
(4) 相談する行政窓口	47.0%
(5) 受けられる支援・サービス	70.5%
(6) 家族の会、本人や家族が参加できる認知症カフェなどの取組	23.1%
(7) 認知症の人への接し方、介助の方法	55.9%
(8) 特にない	2.9%
(9) その他	2.9%
・認知症の症状や治療法	8件
・認知症の研究や海外での取組事例など	3件 45件



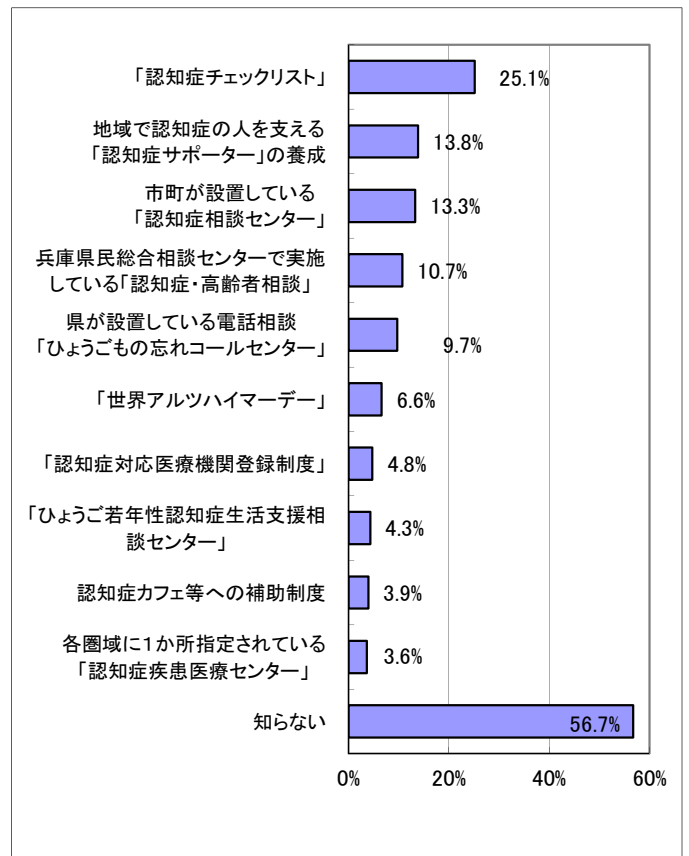
Q10 認知症になっても暮らしやすい社会になるために必要なことは何か。(複数選択可)

(1) 相談できる窓口を増やすこと	55.0%
(2) 早く発見できるように健診などを充実すること	65.3%
(3) 専門医・専門医療機関を増やすこと	51.3%
(4) 認知症の人が暮らせる施設やグループホームを増やすこと	47.9%
(5) 認知症の人が地域で暮らすための生活支援サービスを増やすこと	63.6%
(6) 認知症の人が行方不明にならないように見守りや早期発見の取組を強化すること	46.4%
(7) 介護している家族への支援を強化すること	75.2%
(8) 県民の認知症に関する知識や理解を広げること	39.5%
(9) 特にない	0.6%
(10) その他	6.9%
・地域で認知症患者を見守る支援体制	18件
・認知症に関する教育	14件
など	109件



Q11 県や市町の実施している施策を知っているか。(複数選択可)

(1) 「認知症チェックリスト」	25.1%
(2) 県が設置している電話相談 「ひょうごもの忘れコールセンター」	9.7%
(3) 兵庫県民総合相談センターで実施している「認知症・高齢者相談」	10.7%
(4) 「認知症対応医療機関登録制度」	4.8%
(5) 各圏域に1か所指定されている「認知症疾患医療センター」	3.6%
(6) 市町が設置している「認知症相談センター」	13.3%
(7) 地域で認知症の人を支える「認知症サポーター」の養成	13.8%
(8) 認知症カフェ等への補助制度	3.9%
(9) 若年性認知症の相談窓口「ひょうご若年性認知症生活支援相談センター」	4.3%
(10) 「世界アルツハイマーデー」(毎年9月21日)	6.6%
(11) 知らない	56.7%



Q12 認知症の人が暮らしやすい社会を築くためにあなたができると思うこと。(自由意見)

- ・ 認知症の方への声かけなど地域での見守り 274 件
- ・ 認知症サポーター養成講座の受講など、認知症の正しい知識を持つこと 175 件
- ・ 認知症の予防や早期発見に努めること 59 件
- ・ 認知症患者の家族など、介護者へのサポート 46 件
- ・ 介護施設や認知症カフェ等でのボランティア等 35 件
- ・ 認知症に関する情報を周りの人に広めること 31 件

など 874 件

〔問い合わせ先〕 企画県民部広報課広聴室 (TEL078-362-3021)